



12月19日、2年生の「おもちゃランド」に招待された1年生が、今度は招待する側となり、「秋のおもちゃランド」を開きました。1年生は、2年生がしてくれたことを思い出しながら、おもちゃ作りやお客さんの接待を楽しんでいました。

先月27日の「6年生を送る会」では、5年生が児童会の中心となり、会の企画・運営を担いました。6年生から役割を引き継いで初めての行事。緊張しながらも、しっかりとその役目を果たしました。

子どもたちは、「お手本を見る側」から「お手本を見せる側」へ、「お世話される側」から「お世話する側」へと立場を変えるごとに成長する姿を見せてくれます。



↑「秋のおもちゃランド」のブログ

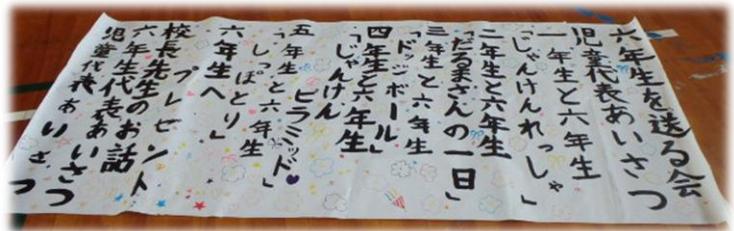
## 別れを引き留めるかのような「遣らずの雨」

「6年生を送る会」は、卒業を控えた6年生と在校生との心温まる交流の場であると同時に、新たなリーダーとなる5年生が、どのような活躍ぶりを見せてくれるのかということも見どころの一つです。

数日前から3階の廊下には、卒業生を見送る花のアーチが作られて置かれていました。玄関からもよく見えるそのアーチが「送る会」への期待を高めていました。

当日の準備では、手作りのプログラムが目を引きました。余白にちりばめられたイラストが、主張しすぎることなく、やさしく彩りを添えていました。担任曰く、「紙を置いておいたら、知らぬ間に子どもたちが仕上げていた」プログラムです。

これまでも、学習発表会でパワフルな演技や感動的な歌声を披露してくれた5年生ですから、少々の活躍ぶりには驚かないのですが、在校生から卒業生へのメッセージカードを見た時には、この5年生が見せた新たな側面に感激しました。。これまでのパワフルさに加えて、細やかな心遣いがあったのです。



メッセージカードの表紙には、カードを贈る相手の似顔絵が描かれていました。一人一人の特徴を捉えていて、宛名を見ずとも、誰へのカードかがすぐに分かる出来栄でした。



最後は、6年生が花のアーチをくぐって退場していきました。

「送る会」の終わった後、しとしとと雨が降り始めました。まるで別れを惜しむかのような「遣らずの雨」――。昨年の3月、卒業を迎える頃にも、同じように雨が降っていたことを思い出します。

家を訪れた人が帰る時刻になって、引き留めるように降り始める雨を「遣らずの雨」と言います。しかし、いくら「遣らずの雨」が降っても、残り15日の日々は春に向かって確実に進んでいきます。お祝い事であるとは承知していても、別れの寂しさは、やはり胸に迫ります。

